

神さまは忘れていなかった

<今月の聖句>「今日を喜び祝い、喜び踊ろう」
(詩編118編24節)

きいろ、あお、びんく、しろ…
おひさまや雲、大地にはぐくまれ
つくしの子たちが走り回るかたわらでいつも
お花たちはのびのび咲き誇っているけれど
今日はなぜかオアシスの上、小宇宙を繰り広げている

先週、年長さん14名がはじめて生け花にいどんだ
切り花はすべて京都のお花屋さんからの贈り物
珍しい京都府産の八重のひまわり
ばら、カーネーション、スターチス、カスミソウ…
どれも夏らしい、すずやかな色合い

町内で懇意にしている華道の先生にリードをお願いし
お花たちの心に、こちらの心をあわせながら
茎をどの長さで切ろうか、どの花をどこにさそうか…
自由に、大胆に、自分ならではの世界がつくられていく
みんなちがって、みんないい、をそのままに
まさしくみんな、つくしで育った子どもたち
完成したそれぞれの「小宇宙」を前に満面の笑み

春先の自粛以来、子どもたち皆、どんなに寂しかったらう
年長さんには、お誕生祝いのケーキ焼きも我慢してもらった
でも、神さまはそれをずっと見守り、忘れていなかった
一人ひとり心込めてつくった、世界にたった一つの生け花は
今年最高の、神さまからのプレゼントだったのかもしれない
(つくし保育園園長 つだかずお)

※6月24日、京都府農林水産部の京都府産花き普及事業により
お花と生け花の道具をお贈りいただきました。

<夏のお花咲くお庭のチャペルで礼拝しよう>
毎週日曜日午前10時30分 だいが教会